



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

地域の担い手人材の発掘・育成を行う「地域づくり入門塾」

尾野 寛明 (おの ひろあき)

有限会社エコカレッジ 代表取締役



○ 登録者情報

所在地

島根県川本町

略歴

2003年 大学在学中に有限会社エコカレッジ 設立
2006年 本社を丸ごと東京都から島根県に移転
2006年 島根県隠岐諸島・海士町における都市農村交流実証実験「AMAワゴン」運行開始・企画運営兼運転手（～2008年）
2009年 専修大学大学院 KSコミュニティビジネスアカデミー 非常勤講師（～2010年）
2010年 島根県江津市・過疎地域ビジネス創業検討委員会検討委員就任、ビジネスコンテスト「Go-Con2010」の企画運営スタート
2011年 一橋大学大学院 商学研究科 博士課程 単位取得退学
2011年 NPO法人 てごねっと石見（島根県江津市）設立 副理事長就任（～2017年）
2011年 島根県雲南市にて担い手育成事業「幸雲南塾」第1期スタート、メイン講師就任（～2015年）
2012年 「日本を立て直す100人」（アエラ 2012年1月2・9日合併号）
2014年 就労継続支援A型事業所エコカレッジ 開設
2014年 NPO法人 おっちらボ（島根県雲南市）設立 副理事長就任（～2017年）
2015年 島根県中山間地域研究センター 客員研究員就任

著書・論文等

『「無理しない」地域づくりの学校 「私」からはじまるコミュニティワーク』（竹端寛・尾野寛明 他、ミネルヴァ書房、2017年）
『ローカルに生きる ソーシャルに働く 新しい仕事を創る若者たち』（松永桂子・尾野寛明著、農文協・シリーズ田園回帰5、2016年）
『過疎地の地域資源を障害者の仕事に』一般社団法人・日本住宅協会「住宅」 Vol.68 2019年5月

○ 地域の担い手人材の発掘・育成を行う「地域づくり入門塾」

取組の内容

少子高齢化・核家族化が進む中、地域のつながりが希薄化し、住民自治や地域の支え合いなど各種活動を担う「担い手」が著しく減りつつあります。反面、情報手段が劇的に発達する中で、これまでは地域活動の主役と見なされてこなかった子育て世代や学生たちが自分なりの課題意識を持って小さな地域活動を始める動きが見られます。会社勤めの若者が週末の余暇で活動する傾向も顕著で、大きな可能性を秘めていると言えます。

ただ、こうした人々は、「地域で何かを始めたいが、つながりもないし、何から始めたらよいか分からない」といった漠然とした悩みを抱えていることが多いです。そのため、せつかくの意欲が行動につながっていない現状があります。

そんな人々を発掘し、地域に繋がりを持ってもらう場として、「地域づくり入門塾」を開催しています。講座は基本的に月1回、半年間で完結。約10名の固定メンバー、自身の活動の「企画書」を作り上げてお互いに発表し合うという形式で進んでいきます。いわゆる「起業塾」とは違い、創業などの成果は求めないため、難易度はかなり低めです。自身のモヤモヤを言語化し、地域課題を整理して自分ならこうすると人前で的確に伝えるところまでを到達目標としています。

参加者も学生からリタイア組まで多様な世代が集まります。興味分野も教育、福祉、子育て、一次産業、アート、デザインなどバラバラ。こうした多様性も重視しており、異分野を組み合わせる「A×B」の発想が生まれていくことを積極的に後押しします。そうした中でこれまでなかった斬新な発想の取り組みにつながり、困難な地域課題解決に向けた新たな動きが生まれることを促しています。

こうした、「地域で何かを始める一歩目」を後押しすることが、地域の担い手を着実に増やしていく力になると思っています。100の力を持つカリスマ頼みの地域づくりから、1の力を持った100名の担い手たちの緩やかな連帯が推し進める「無理しない地域づくり」へ。試行錯誤を続けています。

実績

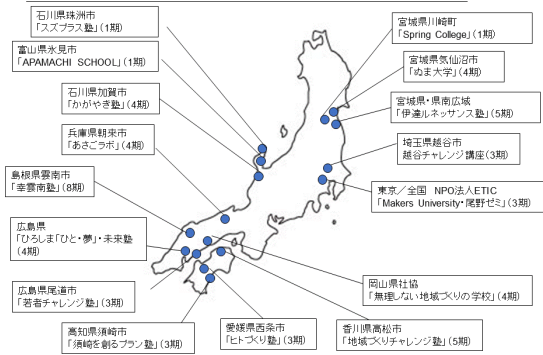
2011年に島根県雲南市で地域づくり実践講座「幸雲南塾」を開講。2014年頃から各地に広がり始め、2018年現在、全国18ヶ所にて同モデルが導入された地域づくり塾が運営されるなど、全国的な動きとなっています（開催終了・休講中の地域も含む）。

雲南市の「幸雲南塾」は現在8期目を迎え、100名以上の若い地域づくりの担い手が発掘され、無理しない、新しい形の地域づくりが進んでいます。中間支援組織の「NPO法人おっちらボ」を設立、空き店舗再生を通じて若者が集うシェアオフィスが立ち上がったほか、訪問看護ステーションの発足など創業9件、家業の継承3件、新規雇用創出51名など、経済効果は2億8千万円と推計されています。住民と共に取り組む先進的な地域医療は共感を呼び、13名の医療従事者がこれまで雲南市に移住してきました。医師も3名移住するなど、人が人を呼ぶまちづくりができつつあります。2018年には「地域再生大賞」準大賞を受賞しました。

2018年度開講中の地域は東北にて3ヶ所、北陸3ヶ所、関東2ヶ所、近畿1ヶ所、中国4ヶ所、四国3ヶ所となっており、東北の震災復興などにおいても新しい担い手発掘の手法が応用されています。各講座では1期あたり10名程度しか塾生を募集しないため、非常にゆっくりではありますが、毎年着実にチャレンジする若者の輪が各地に広がっています。

プログラム修了後は8割が何らかの形で自身のプロジェクトを継続したり、他のプロジェクトに参画するなど継続性が非常に高いのが特徴です。創業が目標ではないため特に促してはいませんが、3年以内に全体の2割が創業に至っており、かなり高い確率といえます。創業3年たった後も9割以上が継続しており、創業支援の手法としても注目されつつあります。

地域づくり塾 実施地域(2018)

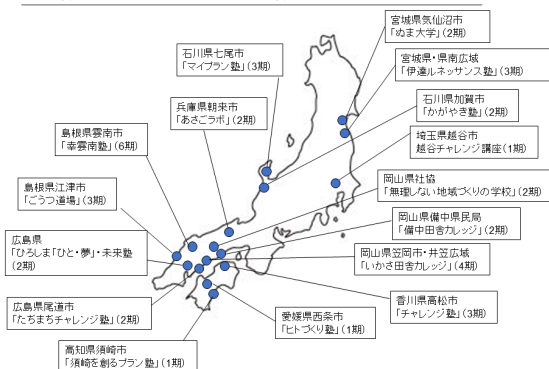


地域づくり塾実施地域の推移



幸雲南塾第1期の最終発表会の様子

地域づくり塾 実施地域(2016)



実施地域一覧 (2014)



工夫した点や苦労した点

地域における人材育成の必要性は叫ばれて久しいですが、育成と同じくらい「発掘」が重要だと思っています。なので、半年間の講座運営ができてもたったの50点。塾生をしっかりと募集できてようやく残りの50点です。

地域で何かを始めたいと思うような潜在層は、関係者のつながりをたどっているだけでは限界があり、ましてや、広報などほとんど読んでいない人々です。募集が集まらないからと関係者を埋めるなどもつてのほか。そのために、若者向け交流会の開催、プレセミナーの開催、SNSや専用ウェブサイトの整備など、応募者を発掘するために常に試行錯誤を行っています。

既に地域で何らかの取り組みをしている人や役を担っている人、関係者やその知り合いなどを引っ張り出してきて、まだ頑張れもって頑張れと尻を叩くような人材育成講座が残念ながら多いのではないのでしょうか。もちろん、そのような人々向けに優れたリーダーシップ養成を行うようなプログラムも必要とは思いますが、せつかくの人材育成の機会を、もっと広く市民に受講してもらう努力が必要だと考えています。

ひとことPR

東京で2001年に19歳で創業したネット通販古書店「エコカレッジ」を、2006年に本社丸ごと島根県の山間部へ移転したのが地方との関わりのスタートでした。過疎地のデメリットを逆に取り家賃は100分の1、貴重な専門書を長期保管する仕組みを作っています。2014年には過疎地で民間参入では全国初とされる就労継続支援A型事業所を開設、伝統技術継承や耕作放棄地再生の担い手創出を担う福祉の形を模索してきました。

2006年からは島根県隠岐郡海士(あま)町で、東京と島根を結ぶバスツアー「AMAワゴン」を3年に渡り実施。延べ15回開催され、500名以上の都市部の若者を巻き込み、間接的なつながりから20名近くの定住者を送り込むイベントとなりました。定住バスツアーに対する助成制度が全国で導入されるモデルになったほか、離島の高校が「島留学」を導入し生徒増を実現するきっかけとなりました。

2010年からは島根県江津(ごうつ)市で、定住対策と創業支援をセットにした地域版ビジネスコンテスト「Go-con」を導入。現在も毎年開催されており、これをきっかけに江津市はいま、挑戦したい若者で溢れる町になっています。廃墟同然となっていた江津市の駅前にはコンテスト開始以降28店舗が再生し、その半分以上がコンテストに何かしらのつながりのある創業となっています。中間支援組織としてNPO法人「てごねっと石見」を設立し、これら一連の取り組みで2015年には地方紙46社が選定する「地域再生大賞」を受賞しました。視察も数多く受け入れており、地方版ビジネスコンテストのモデルは全国各地に波及しています。

嫁が田舎嫌いのため、今でも東京と島根を毎週往復する生活をする「二地域居住」を10年以上実践しています。定住しない生き方から「風の人」などとも呼ばれるようにもなりました。そんな立場として、地域に関心のある若者がもっと気軽に地域づくりに携われる仕組みが作れないかと模索しています。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革	○	7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策	○	9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
○	5	定住促進		11	その他
	6	観光振興・交流			

関連ホームページ

エコカレッジ	http://www.eco-college.com/